

事業計画書

(第 60 期)

平成 28 年 4 月 1 日～平成 29 年 3 月 31 日

公益財団法人 実験動物中央研究所

目 次

| | |
|---|----|
| 平成 28 年度研究計画の概要 | 1 |
| I. プロジェクト研究 (公益目的事業 1, 2) | |
| 1. ヒト化マウスプロジェクト | 3 |
| 2. 実験動物開発のための新技術プロジェクト | 4 |
| 3. マーモセットによるヒト疾患モデル研究・開発プロジェクト | 4 |
| 4. 先端の実験動物研究手法樹立プロジェクト | 4 |
| II. 研究部門 | |
| A. 実験動物研究部 (公益目的事業 1, 2) | |
| 1. 免疫研究室 | 6 |
| 2. 遺伝子改変研究室 | 6 |
| 3. 実験動物遺伝育種研究室 | 6 |
| 4. 生殖工学研究室 | 6 |
| 5. バイオメディカル研究室 | 6 |
| 6. 腫瘍研究室 | 6 |
| 7. 画像解析研究室 | 6 |
| B. マーモセット研究部(公益目的事業 2) | |
| 1. 疾患モデル研究室 | 7 |
| 2. 応用発生学研究センター | 7 |
| 3. 分子発生学研究室 | 7 |
| III. 事業部門 | |
| A. ICLAS モニタリングセンター (公益目的事業 2) | |
| 1. 微生物モニタリング | 8 |
| 2. 遺伝モニタリング | 9 |
| B. 試験事業部 (公益目的事業 2) | 9 |
| C. 動物資源基盤技術センター (公益目的事業 2) | |
| 1. 動物施設管理室 | 10 |
| 2. 資源開発室 | 10 |
| 3. 飼育器材開発室 | 11 |
| 4. 教育・研修担当室 | 11 |
| D. 病理解析センター (公益目的事業 1) | 12 |
| E. トランスジェニックマーモセット作製チーム (公益目的事業 2) | 12 |
| V. その他プログラム (公益目的事業共通) | |
| A. 公的普及活動 | 13 |
| B. コンプライアンス活動 | 13 |
| C. 危機管理活動 | 13 |
| D. 動物実験の実施状況等に係る自己点検評価 | 13 |

公益目的事業 1: 実験動物及び関連資材並びに動物実験法に関する研究開発
公益目的事業 2: 実験動物の品質統御に関する研究調査

平成 28 年度研究計画の概要

—実中研の目標—

1952 年の設立時より一貫して、人類の健康と福祉向上に貢献することを実中研の目指す目標としている。実験動物の研究と研究基盤である実験動物の品質の統御、生きた物差しとしての実験動物並びにそれらに関連する技術を開発することにより、医学研究の発展、新薬の開発や新たな医療技術の開発に寄与することが最重要課題である。

この目標の達成のためには、本来の研究活動と共に研究の成果を 10～20 年かけて実用化することが必要であり、これこそが、民間公益財団の研究所であるからこそ成しうるものであり、使命であると考える。

—研究の基本方針—

研究の基本は、ヒトや動物の機能を解明する科学領域であるインビボ実験医学であり、これが生体の本質を解明する最終最適手段である。ゲノムの解明、多くの最先端技術の開発や、コンピューターによるインシリコ手法による研究などは現在の研究活動に必須であるが、複雑且つ時系列変化が起こり、また個人差もあるような生体に関する研究にはインビボ実験医学が不可欠である。この重要性は、今後ますます高くなっていくと考えられ、実中研は本分野で世界の中核研究機関となることを目指している。

当研究所は過去 63 年にわたる研究成果として、①実験動物の品質・規格の確立を成し遂げ、我が国のみならず、世界の実験動物の質の向上に多大なる貢献をすると共に、実験動物を利用した研究において、再現性を保証出来るようにした。②その技術をベースにモデル動物の作出に重点を置き、研究目的に対応する実験動物を開発し、大学・研究機関・企業に供給した。③更にそれらを深化させ品質・規格が制御された実験動物を用いて、精密な動物実験系、インビボの物差しとしての実験・評価システムを世界に提供してきた。

それらの具体的な成果として、WHO からポリオワクチンの神経毒力検定系基準として「ポリオマウス検定試験」が認定された。また医薬品安全性試験では FDA により「短期がん原性試験モデル Tg-rasH2 マウスシステム」が国際スタンダードとして認められるに至った。現在は超免疫不全 NOG マウス並びにそれを基盤とした数十種類に及ぶ目的別に作製された次世代型 NOG マウスを用いたヒト化マウスと、世界初の遺伝子改変霊長類である遺伝子改変マーモセットを次の世界標準実験動物とすべく、鋭意研究並びに事業化に向けた開発に注力している。

実中研は、その一貫した考え方で世界でも類をみない総合的なインビボ実験システムと信頼性を基盤とし、一方で時代の変化を先取りしながら医学・創薬・医療技術の開発に寄与し、最終的には人類の健康と福祉向上に貢献することを目的とし、更なる活動を継続して行く。

また今年度からは、研究部門・事業部門の連携を強化し、創薬基盤（前臨床試験）に役立つ実験動物の創出のためのプロジェクトチームを立ち上げるとともに、従来ある研究倫理に関する規程を大幅に改訂し、日常的に研究倫理に関する教育や情報提供を行う。

—平成 28 年度の研究計画—

- 1) 基盤技術の継承と強化
- 2) 次世代超免疫不全マウスならびにヒト化マウス
- 3) コモンマーマーモセット
- 4) 実験動物解析方法の開発
- 5) 実験動物研究関連技術の研究ならびに開発
- 6) 研究成果の実用化と普及

—対外活動—

- 1) 国際戦略総合特区への貢献
- 2) 国内外の大学、大学院、研究所との連携化
- 3) 動物福祉への取り組みと法令遵守の強化
- 4) 実験動物ならびに動物実験のための人材養成と教育活動

平成 28 年 3 月 31 日
理事長 野村 龍太

I. プロジェクト研究 (公益目的事業 1、2)

このプロジェクト研究の目標は、人の健康を保持するとともに難治性疾患の治療を新たに開発するための有用なモデル動物を作製し、画期的な *in vivo* 実験系を確立すること、さらにその確立に必要な基盤ならびに周辺技術を整備することを主眼としている。本プロジェクトは当研究所の設立目的に沿って、過去半世紀に確立した実験動物基盤技術に立脚し、展開したポストゲノム時代の多様な基礎的研究、臨床へのトランスレーショナルリサーチ、創薬ならびに *in vivo* 試験系の開発などのテーマが含まれている。

1. ヒト化マウスプロジェクト

このプロジェクトは、NOG マウス基礎とした次世代型 NOG の開発、また従来不可能であったヒト化 *in vivo* 実験系を確立することにより、ヒト疾患を直接標的とする試験研究のための画期的なモデル動物を提供することが目的である。

1) 新たな免疫不全マウスの開発

① NOG マウスにサイトカインや増殖遺伝子などヒト遺伝子を挿入、またはマウス当該遺伝子と置換した改良マウスを作製する。

② NOG マウスで未だ存在する先天免疫に関連するマウス細胞を除去した改良マウスを作製し、新たな免疫不全マウスを開発する。

2) ヒト免疫系保有モデルによるヒト疾患の研究

ヒト型免疫を保有するヒト化マウスを用い、ヒト腫瘍内微小環境の再構築やヒトアレルギー疾患の再現に取り組む。

3) ヒト骨髄系血液細胞保有モデルの作製と応用

ヒト好酸球やヒト好中球の発分化が検討できるモデル動物を開発する。また、ヒト赤血球の分化に挑戦する。

4) ヒト肝保有モデルの作製と応用

雄性不妊を回避した、次世代型 TK-NOG マウスによるヒト化肝臓マウスの作製プロトコール確立を最優先で行う。また、肝特異的プロモーターを用いることでヒト化肝臓妊娠マウスを作製することが可能となったことから、ヒト化肝臓マウスで生成が確認されているヒト特異的代謝産物が、マウス胎盤を透過して胎児に移行するかの検討を開始する。

5) ヒト糖尿病研究モデルの開発

ヒト I 型糖尿病治療モデルとして STZ 誘発糖尿ヒト肝保有マウスを用い、外来遺伝子の導入による膵 B 細胞機能獲得を行い、治療効果を判定する。インスリンシグナル伝達に関わる *IRS2* や抗糖尿病・抗動脈硬化作用をもつアディポカイン等の遺伝子改変マウスを適切な遺伝背景のマウス系統で作製することで、ヒト II 型糖尿病態に近いモデルマウスを開発する。

6) ヒト腫瘍モデルの作製と応用

ヒト腫瘍株 (Patient-derived tumor xenograft; PDX を含む) を NOG マウスを用い、血管内皮細胞や間質細胞、あるいは腫瘍の生着宿主組織 (微小環境) をヒト型化した humanized-tumor graft モデルを開発する。

2. 実験動物開発のための新技術プロジェクト

1) 新たな遺伝子改変法の開発に関する研究

本年度も NOG ES 細胞を用いて、新しい改良型 NOG マウスの作製、導入用新ベクターの開発の継続および KI ベクターで動物を作製し、有効性の検討を継続する。

CRISPR/CAS9 などのゲノム編集技術や人工染色体導入による遺伝子改変を行う。加えて、*in vivo* イメージングに適した動物の開発も行う。

2) 実験動物の保存と作製に関する研究

複数の実験動物種や系統からの生殖細胞や実験材料等の採取、保存、個体復元、提供及び顕微操作に関する生殖工学技術の開発改良および普及活動を行う。

3. マーモセットによるヒト疾患モデル研究・開発プロジェクト

本プロジェクトは、コモンマーモセットを用い、ヒト疾患モデル動物を作出し有用な実験系を樹立するためのプロジェクトである。

1) 治療法開発のための疾患モデルマーモセットの作出

今年度は、糖尿病モデル等の外科処置や薬剤誘導による疾患モデルを作出し、再生医療などの新規治療法の前臨床評価系を開発する。

2) 発生工学・遺伝子改変動物の開発と研究

マーモセットを用いたゲノム編集技術を含めた新規遺伝子改変技術の開発を行い、ヒト疾患モデルマーモセット作出を行う。また、作製技術の普及、作出コストの削減を可能にするシステムの検討を昨年引き続き行う。

3) 規格化動物の確立

下痢等各種疾患の病態と病因を明らかにし、マーモセットの品質向上と疾患発生時の対応マニュアルを充実させる。

4) 脳脊髄形態情報の整備

マーモセット脳組織の解剖組織学的所見を明らかにするため、形態学的手法 (組織学ならびに画像処理法) を用い、脳の組織学的テンプレートを作成する。

4. 先端の実験動物研究手法樹立プロジェクト

1) 実験動物の画像解析プロジェクト

3次元構造解析および4次元機能解析技術を用い、マウス、ラット、マーモセットを対象とした疾患モデル動物の評価系の確立を推進する。さらに、細胞レベルでの脳機能解析を可能にするために、2光子顕微鏡による覚醒下のマーモセットを対象とした *in vivo* イメージング技術を確立する。

2) 実験動物・細胞のDNA多型解析プロジェクト

PCR法を用いた、マウス、ラット、マーモセットおよびヒト細胞の多型マーカープロファイルを作成し、研究用生物材料の遺伝モニタリング、または個体識別管理を行う方法を開発する。

II. 研究部門

A. 実験動物研究部（公益目的事業2）

1. 免疫研究室

- 1) 次世代型 NOG マウスの開発を継続する。
- 2) HLA 導入次世代型 NOG マウスの作製方法の開発を行う。
- 3) 次世代型 NOG マウスにて再現されているヒト免疫系を利用してヒト疾患の再現を試みる。

2. 遺伝子改変研究室

- 1) 人工染色体導入による新たな遺伝子改変法を検討する。
- 2) vCre/vloxP, sCre/sloxP などの新しい遺伝子改変マウスを作製する。
- 3) マーモセットの脳神経活動を生体で可視化するために、脳内にカルシウムインジケータを導入し、麻酔下及び覚醒下にて、2光子顕微鏡により観察する技術を確立する。

3. 実験動物遺伝育種研究室

マーモセットのゲノムマーカーの開発研究を行う。

4. 生殖工学研究室

ほ乳類の生殖細胞、培養細胞、組織および臓器の収集・保存・個体復元・提供に関する下記の研究開発および公表、普及活動を行う。

- 1) 実験動物の生殖細胞の収集、保存、復元および利用方法に関する研究
- 2) 総合自動胚操作システム(IAEMS)の研究開発
- 3) 培養細胞および実験材料の保存と利用方法の研究

5. バイオメディカル研究室

- 1) 雄性不妊を回避できる次世代型 TK-NOG (TKmut30) マウスの比較検討を行い、それとヒト免疫系保有マウスとの複合マウスを作製する。
- 2) ヒト型代謝物/マウス型代謝物の生成比でキメラ率を推定する、ファンクショナルキメラ率推定法の確立を目指す。
- 3) 作製効率を向上させた、ヒト肝保有マウスを用いた肝毒性評価研究を継続する。

6. 腫瘍研究室

- 1) ヒトがんゼノグラフトモデルから、がん幹細胞や転移亢進細胞を単離する技術を開発する。
- 2) 正所移植脳腫瘍モデルを用いた抗がん剤の腫瘍増殖抑制作用の検討を行う。

7. 画像解析研究室

7T MRI を用いて、マウス、マーモセットの構造・機能的解析を行う。

B. マーモセット研究部（公益目的事業 2）

1. 疾患モデル研究室

1) マーモセット支援管理グループ

- ①飼育管理作業の効率化のために、個体情報管理システムの継続運用を行う。また既存の個体情報管理システムの基盤整備を充実させ、個体情報管理システムとマイクロチップとの更なる連携を検討する。
- ②飼育環境の改良のために、新ケージシステムでのエンリッチメントに配慮した飼育方法の検討を継続して行う。

2) 疾患モデル研究グループ

- ①新薬および新規治療法開発のために、iPS 細胞由来の睥島細胞移植の有効性・安全性評価のための糖尿病モデルの開発等のマーモセット疾患モデル開発を行う。
- ②マーモセットの獣医学研究
マーモセットの品質向上と疾患発生時の対応のためのマニュアルの充実に努める。
- ③生物材料提供などのサービスの実施を継続する。

2. 応用発生学研究センター

疾患モデルマーモセット作製のための、遺伝子改変技術の開発を目指し、マーモセットの生理学的特性に適した発生工学の基礎研究および技術開発を、ゲノム編集技術によるノックアウト、ノックインマーモセット作出などレンチウイルスベクターの弱点を克服する新技術の開発を中心に研究開発を行う。

3. 分子発生学研究室（休室）

Ⅲ. 事業部門

A. ICLAS モニタリングセンター（公益目的事業 2）

実験動物の微生物・遺伝モニタリングを通して国際的に実験動物の品質、動物実験の再現性、信頼性の向上および動物福祉に寄与するために、下記の事業および開発を実施する。

1. 微生物モニタリング

1) 微生物検査の実施

外部動物施設から持ち込まれた検体について微生物検査を実施し、わが国の実験動物施設の微生物汚染の現状を把握する。

2) モニタリング普及活動

- ① モニタリングに使用する抗原と抗血清の分与・配布
- ② 微生物モニタリングキット（モニライザ）等の標準物質の頒布
- ③ 研修生、実習生ならびに見学者の受入れ
- ④ 関連団体、大学と協力し教育・講演・実技指導等を行う。
- ⑤ タイおよび韓国 ICLAS モニタリングサブセンターへの支援および海外からの研修生を受入れる。
- ⑥ AALAS、AFLAS および日米科学技術協力事業実験動物委員会への出席、その他国際会議への出席などの活動を通じ、海外情報の収集を行う。

3) ICLAS が実施している Performance Evaluation Program に、リファレンスラボとして参加し、モニタリング技術精度管理システムの活用とそのシステム運営に関する協力する。

4) 感染症検査技術の開発・改良

- ① MALDI-TOF MS を用いた細菌迅速同定システムの確立のための検討を継続する。
- ② 微量検体で検査が可能なイムノクロマト法を用いた抗体検査系の構築を継続する。
- ③ ろ紙を用いた、血清サンプル輸送簡素化の検討を継続する。
- ④ 異常剖検所見を示した臓器（組織）からの微生物学的・病理学的解析を継続する。
- ⑤ 外部機関における異常（もしくは死亡）実験動物の感染症検査を主体とした病理学的診断の受託を継続する。

5) 免疫不全動物における疾患の病理学的データの収集を継続する。

6) 実験用マウスにおける腸内フローラの標準化のための検討を継続する。

7) ホームページの管理・充実、第 63 回日本実験動物学会総会でのブースの出展および微生物モニタリング検査受託が可能なオンライン依頼システムを導入し、広報活動ならびに事業体制の再整備を実施する。

8) 関連研究機関との協力関係を継続する。

2. 遺伝モニタリング

1) 遺伝検査の実施

所内外の動物施設より持ち込まれる近交系や交雑系・クローズドコロニーのマウスおよびラットについて遺伝的モニタリング、遺伝背景検査を実施するとともに、所内生産遺伝子改変マウス、マーモセット、培養細胞等の遺伝子検査を実施する。

2) モニタリングの普及活動

遺伝モニタリングキットおよび試薬の頒布、遺伝モニタリングデータベースの管理、研修生、実習生及び見学者の受け入れ、教育・講演・実技指導、海外からの研修生受け入れや海外実技指導ならびに国内外の情報収集を行う。

3) 検査技術の開発・改良

- ① SNP 解析を用いた近交系ラットの遺伝的モニタリングより、データの論文化、データベース公表を行い、遺伝的モニタリング検査の啓発活動を行う。
- ② マウスおよびラットの主要組織適合複合体(MHC) のタイピング系を構築する。
- ③ ラットの遺伝背景検査系の確立を目指す。

4) 広報活動

ICLAS モニタリングセンターのホームページの管理・充実および第 63 回日本実験動物学会総会ブースの出展を行う。

B. 試験事業部（公益目的事業 2）

1) 委託試験の実施

実中研が開発した動物ならびに保有材料を用いた以下の委託試験を実施する。

- ① ヒト悪性腫瘍/免疫不全マウス系を用いた抗がん剤スクリーニング試験
- ② 免疫不全マウス/ヒト細胞キメラ試験系を用いた薬効試験
- ③ 免疫不全マウスを用いたヒト細胞の造腫瘍性試験
- ④ マーモセット MPTP 誘発パーキンソン病モデルを用いた薬効試験
- ⑤ マーモセット脊髄損傷モデルを用いた薬効試験

また、ラットを用いた試験の受け入れ態勢を進める。

2) ヒト細胞を移植・定着させたマウスの頒布を行う。

3) 動物の品質管理および国内外関係機関との情報交換

日本クレア産および米国 Taconic 産 rasH2 マウスの発がん性簡易モニタリングを実施するとともに、国内外産官（日米製薬工業協会、FDA、厚生労働省等）と情報交換をしながら rasH2 マウスに関する学術啓発活動を継続する。

4) rasH2 マウス、NOG マウスおよびマーモセットの背景データ整備と応用開発を他の受託試験期間と協力し行う。

5) マーモセットにおける認知機能測定法の確立を、iPad を用い視聴覚刺激を報酬とした認知機能評価について予備的検討を行う。

C. 動物資源基盤技術センター（公益目的事業 2）

1. 動物施設管理室

1) 施設管理

- ① 無菌マウス、ノトバイオートマウスおよび各種モデルマウスの生産・供給手順および関連器具機材等の改良を行い、作業効率と安全性の向上を目指す。
- ② 所内生産動物の所内外への供給業務を行う。
- ③ 各種マウスのモデル動物としての基本的な特性、品質規格などの情報を収集・整備し、外部へ公表する。

2) モデル動物作製システムの開発改良

- ① 次世代型 NOG マウスの維持・生産方法の検討
ヒト化マウスプロジェクトにおいて作製される次世代型 NOG マウスの実験動物化のための育成、繁殖法の確立を実験動物研究部との共同で行う（詳細はヒト化マウスプロジェクトの項参照）。
- ② 各種系統の品質管理のために、定期的な微生物学的・遺伝学的モニタリングを継続するとともに、各プロジェクトに対応した小規模生産システムの開発を目指す。また、新規生産系統の特性データ（体重、臓器重量、血液生化学値、免疫学的特性、生存曲線等）の収集を行う（病理解析センターとの共同作業）。
- ③ 外部研究機関への系統分与ならびに各維持系統動物の微生物学的清浄化（微生物クリーニング）および遺伝学的純化（戻し交配等によるコンジェニック化）を行い、実験動物の改良・開発を継続する（資源開発室との共同作業）。
- ④ 適正な飼育施設運用のために、標準作業手順書の改定や共同利用施設の一元管理化を整備し、研究支援体制を強化する。
- ⑤ 新たな腸内フローラとして ASF フローラを定着させたマウスの繁殖特性および特性データの収集とフローラ検査の規格化検討を行う（ICLAS モニタリングセンターとの共同作業）。
- ⑥ ビニールアイソレーター関連器材の改良を始めとする、飼育器材の開発改良を継続する（飼育器具機材開発室との共同作業）。
- ⑦ 過酸化水素系および次亜塩素酸系滅菌剤を用いた飼育器材滅菌方法の検討を実施する。

3) 広報活動・教育研修

- ① 各種系統の特性、品質規格などの情報を外部機関へ提供する。またホームページや学会発表による情報発信を幅広く行う。
- ② 系統動物の維持や飼育管理に関する技術研修や教育研修を行い、実験動物技術の普及に努める。

2. 資源開発室

1) 受託業務の実施および情報管理

生殖工学技術を利用した受託業務として、前年度に引き続き以下の事業を行なう。

- ① 所内外から依頼される実験動物の胚・精子の凍結保存
- ② 体外受精-胚移植を利用した微生物クリーニング、個体復元、系統育成、スピードコレクションによる系統背景置換、個体の計画生産および実験材料の提供
- ③ 所内外から依頼される遺伝子改変マウスおよびラットの作製
- ④ 保存した胚・精子の情報や依頼者の情報の電子化と得られた情報の解析

2) NOG マウスならびに次世代型 NOG マウスの保存および供給を継続する。

3) 生殖工学技術の開発・改良および背景データ整備

- ① 実中研が開発したガラス化保存法 (CIEA method) によるヒト疾患モデル動物等の保存と供給を行う。
- ② CRISPR/Cas9 システムを用いたゲノム編集技術の効率化等を含めた基盤整備と新たな実験動物の作製を行う。
- ③ 次世代 NOG 型マウス ES 細胞の樹立し、所内外への ES 細胞の供給を行う。また遺伝子改変技術の開発改良を行う。
- ④ 次世代型 NOG マウスについて保存精子から個体化までの基礎データを収集する。また、精子保存による各種動物系統の保存ならびに頒布を促進する。

4) 広報活動・教育活動

- ① ホームページの更新により内容を充実させ、情報発信を積極的に行う。
- ② 生殖工学技術に関する技術の教育研修を行い、技術の普及に努める。

3. 飼育器材開発室

- 1) 実験動物に適した飼育環境の調査を継続する。
- 2) 小型アイソレーターの開発や滅菌缶の軽量化の検討等を行う。
- 3) マーモセット保定器 (モンキーチェアー) の開発改良を行う。
- 4) 器材の外部機関への提供を継続する。

4. 教育・研修担当室

1) 実験動物技術者、動物実験管理者の定期教育プログラム

- ① Animal Experimentation Technologist (AET) 「動物実験技術」習得講座の開催を継続する。
- ② 動物実験医学の研究支援者育成システムを基盤とした実験動物技術者、動物実験技術者ならびにそれら管理者のための専門家教育プログラムを本年度も開講する (AET 「動物実験技術」コース)。
- ③ AET マーモセット実技講習会の開催を継続する。

D. 病理解析センター（公益目的事業 2）

1) 微生物モニタリングにおける病理組織学的診断

モニタリング時の剖検において、異常所見が認められた臓器等の病理組織学的診断を行う。具体的には異常臓器のパラフィンブロックから HE 染色標本を作製し、病理組織学的診断を行う。また、HE 標本にて判定困難な場合には、特殊染色等を行い異常原因の究明を行う。

2) 病理標本作製ならびに病理組織学的診断

所内外から依頼された各種実験動物の病理標本作製を HE 染色、特殊染色ならびに免疫組織染色技術を用いて行う。ヒト細胞移植を行った免疫不全マウス組織内でのヒト細胞群の特異的な検出方法を確立する。また特殊染色技術を向上させ、病理学的診断の精度向上を行う。また、診断の一助として、肉眼的写真および顕微鏡写真撮影も行う。

3) 受託試験の組織材料の病理学的解析

各種受託試験においては試験ごとに解析手法を決定し、最終的に病理組織学的評価・診断をその方法を用いて実施する。

E. トランスジェニックマーモセット作製チーム

1) マーモセット生殖工学技術の効率化を検討する。

2) トランスジェニックマーモセット作製技術のプロトコール化を進め、安定した技術者を育成する。

IV. その他プログラム（公益目的事業共通）

A. 公的普及活動

国内および国際活動を通じ、国内外の実験動物・動物実験の普及と啓発を目指す。

B. コンプライアンス活動

理事長の諮問によるコンプライアンスに関する事項の調査および職員からの相談窓口を開設し、その結果を理事長に報告する。

C. 危機管理活動

研究所の危機管理を実践するため総務部に安全管理室を設置し、動物愛護・管理に関する業務、労働衛生に関する業務、防災に関する業務および危険物・薬物管理に関する業務等を一元管理し、関連情報を所員に周知・徹底する。

D. 動物実験の実施状況等に係る自己点検評価

所長は、年度内の所内における動物実験に関する規程等の整備状況および動物実験の実施状況等について、年度終了後速やかに「厚生労働省の所管する実施機関における動物実験等の実施に関する基本指針(厚生労働省平成 18 年通知) 」への適合性の観点から自己点検および評価を行うとともに、適切な方法で外部へ公表する。また、これにより所内の動物実験の適合性の維持および動物実験に関する管理体制の質の向上に努める。